

# 月刊「ワークホームだより」1月号

発行:2024年12月26日 発行者:ワークホーム高砂  
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111  
<http://workhome-takasago.org/> E-mail [workhome@nifty.com](mailto:workhome@nifty.com)



## 今年の一字「達」

ワークホーム高砂 楠 英充

今年も残りわずかとなりました。年を重ねる度に一年が早く感じます。

さて、前回私が担当させていただいた9月号の巻頭文で国の就労系福祉サービス(就労継続B型)の予算を利用している皆さんに均等に分配すると月額118,840円であるという事を書かせてもらいましたが、その事実を事業所としてどう受け止めるのですか?という鋭いご指摘がありましたので少し触れたいと思います。

就労系福祉サービス、特に就労継続B型事業では生産活動を行い、その対価として工賃を支払いなさいという事になります。ですが実際に支払われている工賃は下記のようになっています。

B型の全国平均月額工賃 16,369円 兵庫県月額平均工賃 14,914円(令和4年度)

何故私がこのような事を書いたかというと、1人当たり月額にして118,840円というお金をいただきサービス事業所を運営させてもらっています。私は、これだけの金額を頂いているのだからそれ相応のサービスを提供していかなければならぬと思っています。サービスとは作業だけでなく、その他日中活動における全ての活動で、より良い環境で自分にあった作業を提供してくれることだと思います。「働く」を主軸に置いたワークホーム高砂では、作業を提供したから良しではなく、利用者さんのライフステージに合わせた作業提供、よりよい生活の為の工賃財源の確保、そしてなにより「働きがい」を感じられる作業提供をすることが職員の務めと思っています。障害者の働く環境は目覚ましい勢いで良くなっています。障害者雇用についても多様な働き方ができる環境が整いつつある中、ワークホーム高砂としてはそれでも雇用が難しい方、働きたいと思っても働く場がない方への作業の提供も行なっています。多様性が加速し、自分の生き方を選択できる世の中において、障害があるからという理由で世の中の流れから外れることはおかしいと思います。私がよく使う「大人として」という言葉には障害の有無に関係なく、1人の大人として暮らしていくという意味を込めています。

では、私たち社会福祉法人が、就労系サービス事業所が何をやつていかなければならないのか?利用者さんが望んでいる生活は何なのか?その実現の為には何が必要で何をサポートできるか?そんなことを考え迷っているうちに年末となってしまいました。まだ明確な答えを見つけられず、ああでもない、こうでもないと迷っている最中ではありますが、職員と一緒に「働きがいのある職場」「働きがきちんと評価される職場」「自分の能力を遺憾なく発揮できる職場」そんな事業所を目指して取り組んでいきたいと思っています。

来年の一字は決意の「決」と言えるよう頑張りますので、来年もよろしくお願ひします。



1月4日(土) 作業開始日

1月8日(水) 工賃支給日

1月11日(土) 季節行事



ばんたんゆうあい



11月29日~12月2日まで「ばんたんゆうあい作品展」がイーグレ姫路で開催されました。ワークホームからは、みんなで愛情込めて育て、収穫祭で美味しいいただいたスイートコーンで作った作品を展示しました。スイートコーンの芯を輪切りにして乾かし、それを染料で着色したものをパネルに貼っていました。ワークホームが創立20周年の記念年でしたので「花・みんな笑顔」と題し、記念の祝いと綺麗な花畠を表現することができました。皆さん「これ楽しいな!」「そっちの色もやりたい」と楽しんで参加してくれました。本当に笑顔あふれる取り組み、そして、作品になったと思います。これからもワークホームに笑顔の花が咲き続けますように!



(山崎)



法人虐待防止研修会



12月7日(土)に法人全体の研修会が開催されました。内容は大きく3つで、虐待防止研修、ハラスメント研修、BCP(事業継続計画)報告会です。法人で働いているパートさん含め70人の職員が一堂に会し、グループワークで学びと交流を深めました。

虐待防止研修では基礎に立ち返りいくつかのケースを共有し事業所、先輩後輩関係なく意見を出し合いました。現場で働く私たちにとって日々虐待と隣り合わせであることを再確認しました。BCP研修では各事業所の大きな地震が起きた際や水害時の避難想定などを確認しました。とても緊張感のある研修になりました。

(重田)

今月の担当は、新山でした。



12/21(土)にワークホーム・納豆工房・保護者会共催のクリスマス会を今年  
できた曾根交流センターで開催しました。合計 75 人の参加ありがとうございました。納豆工房なっとこちゃんによるレクリエーションを楽しみ、昨年に同様、  
山崎支援員による指導のもと、利用者、保護者全員で合唱を行いました。利用  
者さんの楽しんでいる姿が見られてとてもよかったです。今年度も保護者さん  
のお力添えのもと充実したクリスマス会を行うことができました。 (吉中)

## 就労支援フォーラム NIPPON

12月14、15日に東京ビックサイトで行われた、就労支援フォーラムNIPPONに野村と重田で参加してきました。「何のための就労支援なのか?」をテーマにB型事業所の現状とこれらについて、全国の様々な事業所の取り組みを聞くことができました。

支援者としてのスキルアップはだけでなく、事業所としてどのように進んでいく、何を目指していくのかを常に考えていく必要があると再確認させられました。 (野村)



## 加古川はぐるま福祉会 障害者就労支援者研修会

12月5日に障害者就労支援研修会に参加しました。今回の研修ではひ  
ょうごジョブコーチの方が講師に来られており、就労するまでの流れやポイ  
ントを勉強してきました。就労するまでに大事なことは利用者さんが能力に  
応じた役割と責任を持って働くこと、企業側は自然に受け入れる体制が  
整っていることが大事なことだと学びました。

今後就労を考えている方もいると思いますので、まずは利用者さんの思  
いを最優先し、就労するまでに必要なことをサポート・応援していきたいと  
思いました。 (長瀬)

# 月刊「ワークホームだより」2月号

発行:2025年1月24日 発行者:ワークホーム高砂  
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111  
http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



## すべてに備えよ

施設長 長谷川 博信

法人では昨年末にパワハラや虐待防止、BCP(事業継続計画)の法人に課せられた義務的研修を実施しました。昨年は能登の震災に始まり、異常気象等による農作物の不作、ウクライナ情勢等による物価の高騰に心を悩ませました。先日も年初から南海トラフ地震の予兆を思わせる地震があったことや、現在入所施設あかりの家では35人のコロナ感染が確認されています。今まさに研修の意義を再確認するようなことが起こっているのです。

最近は、物価高等に加え春闘のニュースを見るようになりました。大手企業は5%、中小に至っては格差是正を含めて6%の賃上げ要求がなされるようです。我々社会福祉法人の報酬も世の中の流れに沿った形で改定されていくのか注目しています。

残念ながら報酬は国が決めるもので、私たちは訴えることしか出来ません。一方で利用者の工賃向上や働きやすい職場環境づくりは、ゴトウ・アズ・プランニング様の協力や私たちの努力によって維持・向上できることだと思ってています。

さて、4月には新たな利用者6名を迎えます。特にはじめて働く方には、利用開始当初にしっかりと支援が必要です。利用者個々への担当制と担当へのバックアップ体制を再構築し誰も取り残さない支援を行っていきます。

同時に施設外就労も始まります。当事業所では以前より就労移行支援事業を展開する計画でしたが、まずは働きながら社会性を身につけることが見込める施設外就労に取り組むこととしました。業務委託契約による清掃業務を兵庫大学で行います。

今、国連の障害者権利委員会は、障害の有無にかかわらず共に働くことができる社会を構築することが重要との観点から、日本に対してシェルタードワークショップは隔離された就労の場だと厳しい見解を示しています。一方で「重い障害があっても「働きたい」を応援したい」とするワークホーム高砂の理念のもと、現実的な就労の場は守らなければなりません。就労継続支援は、高齢・重度障害者への門戸を閉ざすことなく、旧法の授産施設の時代から連綿と続く意義のある事業です。利用者の皆様には新たな選択肢と広がりを感じてもらうことで、微力ながらもこれらの批判に対応ていきたいと思います。

今、ワークホーム高砂は、このような多くの課題や危機を想定内とするため、さらなる「備え」の積み上げに務めています。

穏やかな新年を迎えることができたのも保護者の皆様やゴトウ・アズ・プランニング様のご協力のもと、これまでの「備え」があったからです。

感謝の気持ちを込めて、謹んで新年のお慶びを申し上げます。



## 2月予定

2月7日(金) プラッシング指導

2月12日(水) 工賃支給日

2月23日(日) 保護者役員会



新年あけましておめでとうございます。年始は晴れて暖かくとても穏やかな年越しとなりました。ワークホームの年明け作業は例年忙しく慌ただしいですが、今年は比較的作業量も少なく、落ち着いた仕事始めとなりました。

早くも年が明けて1ヶ月が経とうとしています。作業量が減ってできた時間の余裕を使い、タオル班とたたみ班は朝の30分間掃除をしてから作業を始めています。床に大きなほこりが落ちていることが多いワークホームの作業場でしたが綺麗な状態で気持ちよく作業をおこなうことが出来るようになりました。今後もこの習慣を続けていきたいと思います。2025年も変わらずワークホーム高砂をよろしくお願いします。 (重田)

## 豊富工場見学



1月16日、23日の2日間でいき新設されたGOTOの豊富工場の見学に行ってきました。最新の機械では、機械熱が極力遮断されていました。今までGOTO商品のほとんどがワークホーム高砂で請け負う形になっていましたが、今後は豊富工場と連携しながら工場運営をしていきたいです。 (吉中)



今月の担当は、長瀬でした。

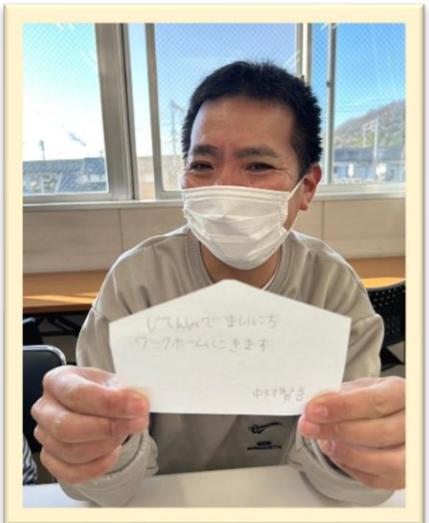


# 鹿嶋神社へ行きました！



1月11日(土)に季節行事を行いました。毎年初詣に曾根天満宮に行っていましたが今年は趣を変え、鹿嶋神社に初詣に行きました。鹿嶋さんは年が明けて数日経っていますが参拝者も多く、参道には露店が出て初詣感が残っていました。この日は寒さも若干やわらぎ、一ノ池公園から歩いて初詣気分を満喫しながら参拝しました。ワークホーム代表として梅原さん、松永さんでおみくじを引き、見事大吉でした。

ワークホームへ帰ってからは、みんなで白玉作りをし、おしるこにして頂きました。また、今年の抱負を書きだし、みんなで披露しあうなど楽しい時間を過ごすことができました。今年の抱負については、絵馬に正書しワークホームに全員分飾っておきたいと思います。今年の年末にみんなで「達成できたね。」と笑って見たいと思います。（楠）



何を書こうかな





# 月刊「ワークホームだより」3月号

発行:2025年2月21日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

<http://workhome-takasago.org/> E-mail workhome@nifty.com

現場が輝いてこそ、崇高な理念や素晴らしい建物も価値を持つ

副施設長 亀山 隆幸

タイトルは三原理事長があかりの家施設長時代に20年以上に渡り、毎年4月1日に職員に向けた「共通確認」にある言葉です。進むべき方向の示唆であり、立ち返る原点もあります。

2/13(木)、京都府知的障害者福祉協会 生産・就労部会の見学で約18名の方が来所されました。改めて、自分たちのモットーを考える機会となりました。

## ワークホーム高砂の思い

働くを通して、社会とのつながりを深めたい！

病院や高齢者施設のリネンやタオル等のクリーニング作業を通して、社会インフラを支える誇りある仕事をしています。

ワークへ行けば働く仲間がいる。毎日通うことが楽しい！ 働くことが楽しい！



問題提起したいのは、<誇り>という言葉です。これは周りから「誇りをもって！」と言われて持てるものではなく、自分たちの中で見出されてこそ、湧いてくるものだと思います。以下は、私なりに感じる<誇り>です。

### 1. 社会とつながる

ある保護者の方から、「うちの子が仕事をさせてもらえて嬉しい」とお聞きしたことがあります。その商品を必要とされる病院等に、「うちの子」がたたまれた商品を通して社会とつながる。

また、ゴトウ・アズ・プランニングの従業員の方が洗濯や搬入出で出入りされる光景が日常的にあります。こういった外部の方の出入りも、社会に開かれた事業所として大事な要素です。

### 2. 仕事と休憩のメリハリ

「ワークへ行けば働く仲間がいる。毎日通うことが楽しい！ 働くことが楽しい！」は開設20年前から変わらない光景です。休憩はワイワイしても、終了時間になると「仕事～！」と利用者が声をあげて1Fに降りていく姿に、障害の有無は関係ありません。

### 3. 自閉症総合援助センターを標榜する法人として担う就労支援部門

私がいた15年前と比べて、シーツ班に占める自閉症の方の割合は格段に増えています。

イージーフォークにシーツをかける工程が魅力的なようです。「フォークが目の前に降りてくる」＝「フックに引っかけてよ」の機械からの指示とも言えます。

また、自分でリズム維持をするのが困難な方にとって、定期的に降りてくるフォークは「メトロノーム的な支えをしてくれている」と楠課長は言っていましたが、私もそう思います。



## 京都府生産活動・就労支援部会見学会



2月13日(木)に京都府の生産就労部会の皆様18名が施設見学でワークホーム高砂並びに納豆工房なつこちゃんを訪れて下さいました。各1時間という短い時間ではありましたが、事業所説明・現場見学を行ないました。現場見学ではクリーニング作業という大きな括りの中に複数の商品があり、段階的にスモールステップが刻めるここと。個人の特性に合った作業を選べるという事を説明しました。こうして遠方から見学に来てくださることは我々にとって、とても励みになりますし、何より作業に真剣に取り組む利用者さんの表情を外部の方に見ていただけるのは、作業を中心に活動してきたワークホーム高砂としての誇りを感じました。

今後も利用者さんの真剣な眼差しを外部の人達に是非見て頂きたいと思っています。 (楠)

今月の担当は、重田でした

# ブラッシング指導



2月7日(金)加古川歯科保健センターの歯科衛生士さんに来ていただきブラッシング指導をしていただきました。染め出しでの磨き残しチェックや、歯ブラシの使い方などを実践的に学びました。普段から歯磨きはしていても、磨き残しがどこにあるかわかりにくいですよね😊

お知らせしました指導結果には、衛生士さんから丁寧なコメントをいただいているのでご確認ください。

ワークホーム高砂では来年度よりブラッシング指導を年2回実施する予定です。正しい歯の磨き方を学び、歯と口の健康を守っていって欲しいと思います。

(山本)



## ノロウイルスに要注意

ノロウイルスの感染経路と予防方法は?

寒い季節はノロウイルスによる食中毒が増えます。ノロウイルスは少量でも手や指、食品などを介して口から入ると体の中で増殖し、腹痛やおう吐、下痢などの症状を引き起こします。普段から感染しないよう、丁寧な手洗いや日々の健康管理を心がけましょう😊

(山本)

# 事業報告会



2月11日(火)兵庫県強度行動障害地域生活支援事業報告会に長谷川施設長、亀山副施設長、重田で参加してきました。兵庫県強度行動障害地域生活支援事業は、緊急性のある強度行動障害者を一定期間集中支援し、再度地域生活を送ることができる仕組みを構築することを目的に、令和元年度より兵庫県から社会福祉法人あかりの家が委託を受け、取り組んできた事業です。

今回の報告を同法人他事業所の立場から聞かせていただき、とても大きな刺激になりました。具体的なケースと取り組みの報告を聞き、そこまでするんだという驚きがありました。利用者さんだけでなく、ご家族にも寄り添い、一緒に乗り越えるという姿勢から自閉症の方の人生を応援したいという熱い思いがひしひしと伝わってきました。また、「チーム支援」という言葉が何度も言っていたのが印象的でした。重いケースを少人数で抱えるのではなく、一つのチームとして支えあいながら、みんなで向き合っていることに支援員の誇りを感じました。

(重田)



## 企業説明会に参加しました

2月13日(木)社会福祉法人あかりの家として兵庫大学で開催された企業説明会に参加してきました。約10の企業と50名の学生が参加され、あかりのブースには9人の社会福祉学科と栄養マネジメント学科の学生さんが来られました。みなさんニコニコと笑顔で頷きながら説明を聞かれていたのが印象的でした。口頭での説明では伝わりきらないと思うので今後の見学やインターンに繋がればいいなと思います。

(重田)



## 工賃向上研修に参加しました



2月7日(金)にリモートにて工賃向上研修に花岡が参加しました。兵庫県の平均工賃に比べ、ワークホームの平均工賃は非常に高かったです。工賃を上げていく為に職員は何をするべきなのか?現状を把握し、事業・支援計画を考え、実践することが大事だということが分かりました。現状に満足せず、更なるワークホームの工賃向上に向けて事業所全体で共有し、取り組んでいこうと思いました。

(花岡)

# 月刊「ワークホームだよい」4月号

発行:2025年3月25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

<http://workhome-takasago.org/> E-mail [workhome@nifty.com](mailto:workhome@nifty.com)



## 2024年度を振り返って

ワークホーム高砂 楠 英充

早いものでまた1年が終わろうとしています。この1年はワークホーム高砂にとって本当に大きな変化の1年でした。斎藤前施設長が退任され長谷川施設長のもと新たな体制でスタートを切った春。地球温暖化に伴う酷暑の夏、GOTOさんの直営工場が稼働し滞留が解消した秋、GOTOさんの協力で工場の5日稼働が実現した冬。本当に色々な事が目まぐるしく変化してきました。

以前からワークホーム高砂では、「作業員から支援員へ」というスローガンのもと、利用者支援に重点を置いた働き方を目指してきましたが、目の前の作業に追われ、なかなか達成することができませんでした。しかし作業量が減少することで目指していた形ができるようになってきました。作業量の減少にはいくつかの要因がありました。県民局による立入検査で使用水量の指摘があり、法的に総量規制がかかる事で作業量も制限を受け作業量が減少した事。それを受けGOTOさんが急ピッチで8月に自社直営工場の建設、稼働を行っていただき代替手段ができた事、更に協議の元、GOTOさんの協力を頂き工場の週5日稼働も実現できました。「利用者支援に重点を置いた働き方」の他にも、「自分たちの働く場を綺麗にする」という事も実現でき、職員・利用者が一緒に清掃する時間を持つことができ、「自分たちの働く場」という意識がこれまでよりも強く持てるようになった気がします。働くためには、働くための基盤が重要で、こういった福祉事業所ではより重要であると改めて感じました。利用者さんの仕事の成果は、働くための基盤の基にあり、それを作るのは職員の職務なのだと思います。2025年度は新たに6名の新規利用者さんを迎え、施設外就労という新たな事業にも取り組んでいきます。利用者さんが自分たちの手で仕事の成果を得られるよう、最高のパフォーマンスを発揮できる環境・支援を行っていきたいと思います。

2025年度は新たなワークホーム高砂のスタートと位置付け、これまで大切にしてきた物と、これから必要な物、双方を意識し、「ライフステージに応じた段階的な働き方の確立」、「就労支援のノウハウの蓄積」、「常に利用者さんの次のステージを目指した支援」の3つを柱にやっていきたいと思います。

利用者さんの生活については、今年同様、「自分たちの選択肢を増やす」ということをテーマに体験型の行事を企画し、初めての体験・経験から自分の好きな物を新たに見つける・今までできないと思っていた事もやればできるという事を利用者さんと一緒に探していきたいと思います。

「できる、できないよりもやってみる」ができる事業所をこれからも作っていきたいと思います。

# 4月の予定

4月3日(木)

新規利用者歓迎お花見

※作業は通常通り行いますのでいつも通り通所してください。

4月9日(水)

工賃支給日

## 新たな挑戦

今年度を持ちまして棒谷 高士さんが退所することになりました。ワークホーム高砂で16年間クリーニング作業に従事していただき、マルチに活躍してくれました。本当に16年間お疲れさまでした！

**棒谷 高士さん(ぼうたに たかし)**

【本人からの挨拶】



本当に色々なことがあった16年間でした。

ワークで得た経験を新たな場で活かし日々邁進して行きたいと思います。

今までお世話になり有難うございました。(本人直筆)



【担当職員から一言】

この度、棒谷高士さんがワークホーム高砂を退所することになりました。去年から棒谷さんより、「ステップアップをしたい」と相談を受け、花岡と2人で様々なことにチャレンジしてきました。そして、4月から就労継続支援A型事業所“Fromjob姫路”という事業所に行くことが決まりました。棒谷さんがステップアップすることができ、担当職員として心より嬉しく思います。16年間ありがとうございました！次の事業所でも頑張ってください！！(花岡)

## 退職職員

吉中 波緒人  
(よしなか なおと)



今年度を持ちまして退職することになりました吉中 波緒人です。嘱託職員で約3年、正規職員で5年務めさせてもらいました。入社した当初は右も左も分からなく僕に優しくご指導、ご鞭撻をして頂いた先輩職員の皆さん、日々学びをくれた利用者の皆さん、目まぐるしく変わっていく環境の中で頑張れたのはみなさんのおかげです。

特に、どんな時も一生懸命に作業する利用者さんの姿には刺激をもらう毎日でした。これからも身体を大事に日々頑張って下さい。僕も皆さんに負けないよう頑張ります。今まで本当にありがとうございました。(吉中)

今月の担当は、吉中でした。

# 2024年度「1年を振り返る会」

3月22日(土)に曾根地域交流センターで一年を振り返る会を開催しました。中村会長、亀山副施設長の挨拶から始まり、SMKマジックショー、20周年勤続表彰、一年を振り返るスライドショー、桂支援員、吉田支援員異動の挨拶、吉中支援員退職の挨拶、長谷川施設長の挨拶と盛りだくさんの会となりました。みなさん楽しそうに参加しておられ、企画、準備した甲斐がありました。今年度もたくさんの行事に協力いただいた保護者会をはじめ保護者の皆様、どうもありがとうございました。また、来年度もよりワークホームでの生活が充実するよう、職員一同精進しますのでご協力の程宜しくお願いします。(重田)



## 旬を味わう ~いちご狩り~



3月1日土曜日に加古川市志方町にある小林いちご農園(りゅうちゃんのいちご狩り)へ行ってきました。ビールハウスの中はいちごの甘酸っぱい匂いに溢れ、蜂が飛んでいました。利用者さんも赤く大きくなつたいちごに大興奮でした。いちご狩りが始まると口いっぱいにいちごをほおばり美味しいそうに食べていました。

今回、いちご狩りを企画したのには、色々な経験をして欲しい、季節を感じながら生きて欲しいという思いがありました。これからもそんな企画を作っていくたいと思っています。またご要望等ありましたらいつでもお聞かせください。(楠)



## 新規利用者利用開始

東はりま特別支援学校を卒業された6名の方が新たにワークホーム高砂で一緒に働くことになりました！

昨年度から各々実習を繰り返してきましたが、実習とは違った雰囲気に戸惑いや失敗することもあると思いますが、少しずつでも成長していくよう応援していきたいと思っています。(長瀬)

※次月以降で一人ずつ紹介をしていきたいと思っています。



# 月刊「ワークホームだより」5月号

発行:2025年4月25日 発行者:ワークホーム高砂

〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111

<http://workhome-takasago.org/> E-mail [workhome@nifty.com](mailto:workhome@nifty.com)



## 劇団

ワークホーム高砂施設長 長谷川 博信

少し前だが尼崎のピッコロシアターでゲキ集団 BumpyBox の「素敵な住人」を観てきた。

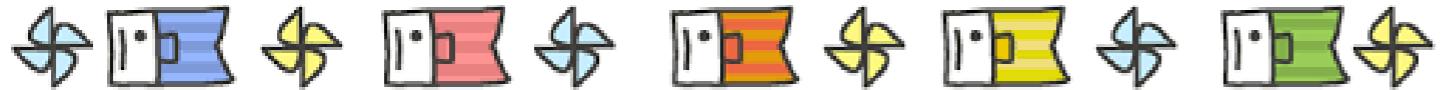
「無関心」「人見知り」「面倒」等の理由から同じマンションの住民であっても関係が持てない。このような住民たちが故障したエレベーターの中で、少しずつコミカルな会話がはじまり、実は互いに話がしたいと思っていたことを語り合う。

特に車椅子に乗った主人公が、障害者に対する偏見や自分の意識を熱く語る場面は考えさせられた。「(あなたたちは私のことを)かわいそうと思っているんでしょ? 車椅子に乗っていること以外は皆さんと何も変わりはない。大変と思ってるんでしょ? 車椅子生活は大変だよ」云々。

共生社会とは言うものの、住民が共生できていない現代を風刺したメッセージ性の強い作品だった。

冒頭で尼崎市演劇祭実行委員長は、市民劇団活動の担い手の減少を憂いつつ、文化人類学者レヴィ・ストロースのブリコラージュを語った。手に入る寄せ集めの素材で上手にモノを作ることは人類の根源的な思考であり、芸術がデジタル化される現代であっても「歌う、踊る、演じる」の魅力は消えないと言う。私も市民演劇の魅力は、脚本や演出に加え、間近で演者の熱量を感じるところにあると思っている。少ない予算のもと大道具、小道具なども寄せ集めの素材を精一杯活用した、まさに器用仕事である。

私が見た劇団員の特徴は、演劇に対して深い情熱を持ち、創造的なアイデアと新しい物語やキャラクターを生み出すことに喜びを感じ、監督、演者間でコミュニケーションを取りチームの調和を保っているところだ。全員が劇場の素敵な住人であった。



## 5月の予定

5月10日(土) 保護者会総会

5月14日(水) 工賃支給日

5月23日(金) ブラッシング指導

5月31日(土) 通所日

## 施設外就労始まりました!

4月1日より施設外就労として兵庫大学の清掃が始まりました。ワークホームから3人ずつ利用者さんが行っています。A班は大野さん、梅原さん、木田さん。B班は小南さん、岸本さん、森川さんが1週間ずつ交代で清掃を行っています。初めての試みで緊張した様子が最初は見られましたが、徐々に1人で出来るようになってきて今では自信に満ち溢れた表情へと変わっていきました。それ違う先生方にも「ありがとう」「綺麗になっています」とお褒めの言葉をいただいております。現状に慢心せず、もっと綺麗に清掃できるようにみんなで頑張っていこうと思います。(花岡)



今月の担当は野村でした。

# 新規利用者歓迎会！春のお花見



4月3日に新規利用者歓迎会として日笠山公園でお弁当を食べながらお花見を行いました。日笠山公園まではみんなで歩いて行きましたが坂道や階段が長く、疲れている方もいらっしゃいました（笑）

お弁当はオリーブ福祉会のものを提供しました。いつもと違うお弁当で、みなさん嬉しそうに食べておられました。食後は桜を見たり写真を撮ったり、ブランコで遊んだりと皆さん自由に過ごしていただきました。

帰りは急な雨に見舞われ大変でしたが、皆さんの記憶に残るお花見になったのではと思います。（新山）

## 新規利用者紹介

### 佐伯一樹（さえきかずき）さん

佐伯一樹です。タオルたたみが好きです。少しづつ挑戦していきがんばりたいです。工賃を貰っていろいろなところへ行きたいです。

### 清水颶斗（しみずりゅうと）さん

清水颶斗です。好きなことはご飯を食べることとテレビを見ることです。ワークホームでお仕事を頑張ります。よろしくお願ひします。

### 富山直人（とみやまなおと）さん

富山直人です。塗り絵が好きです。今はタオルや防水をがんばっています。少しづつ覚えていき、いろいろなことに挑戦したいです。

### 兵頭楓真（ひょうどうふうま）さん

兵頭楓真です。体力にはとても自信があります。工賃をもらってお母さんと色々な美味しいものを食べたいです。

### 松田実桜（まつだみお）さん

松田実桜です。好きな食べ物はくだものと魚です。好きなことは絵をかくことです。お仕事を頑張ります。

### 柳田悠馬（やなぎだゆうま）さん

柳田悠馬です。シーツ班で作業頑張ります。よろしくお願ひします。

## 新任職員紹介

この度、4月からワークホームで働くことになりました【吉永唯人】です。

去年度までは嘱託職員として納豆工房兼希望山荘の支援員として5年ほど在籍していましたが、6年目の今年度より正規職員として働かせていただくことになりました。

入社当初の1年目にワークホームで働いていたこともあり、知っている利用者さんがたくさんいることもあり、すぐに受け入れてくれて今ではたくさんの利用者の優しさで毎日楽しく作業や支援が出来ています。

元々はサッカーをしていたため午後からの勤務が多かったですが、これからは今まで以上にたくさんの時間を利用者さんと共に過ごしていくことになります。分からない事の方が多いと思いますが、利用者さんと一緒に僕自身も成長していくたいなと思っています。

これからよろしくお願ひします！！！



# 月刊「ワークホームだより」6月号

発行:2025年5月23日 発行者:ワークホーム高砂  
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111  
<http://workhome-takasago.org/> E-mail [workhome@nifty.com](mailto:workhome@nifty.com)

現場が輝いてこそ、崇高な理念や素晴らしい建物も価値を持つ vol.2

~2024(R6)年度 WH 高砂・納豆工房・GH エピソード集より~

副施設長 亀山 隆幸

今回は、昨年度からスタートした<WH 高砂・納豆工房・GH エピソード集>より抜粋します。

WH では、中高等部の実習生徒さんを多数受け入れています。正確にタオル等をたためている方もおられれば、実習時点では難しい方もおられます。そこで支援員の問題意識のもとに綴られたエピソードをあげてみます。

何をもって タオルたたみの上達が見込めるのか?

WH 高砂 長瀬 圭佑



特別支援学校（中学部・高等部）等の実習担当をさせていただいた。

昨年一年間で約15名の方が実習や体験会に参加された中で、「何をもってクリーニング作業の上達が見込めるのか?」という目安ってあるんだろうかと頭によぎった。

クリーニング作業の中で「端を合わせる」「綺麗に積んでいく」ことをWHの利用者さんには常々言っており、実習生に対してもそれが出来るように指導してきた。

ある実習生の方を指導していた際、たたむことは元より指先をつかって「つまむ」ことが難しく、タオルをギュッと握る事しかできなかった。この「つまむ」がキーポイントではないかと思えてきた。

具体的には、①親指と人差し指・中指の3本の指で端をつまんでいるのか?、②5本全ての指でつまんでいるのか?である。今までたためる人しか見てこなかった為、気にすることもなかった。今回の発見でクリーニング作業をする中で、どの作業においても指先をしっかりとつかえてい るのかがとても重要なポイントであり、ワークホームで仕事をする為の第一歩だと気づかされた。

## 【コメント（亀山）】

あかりの家在職時、トモニ療育センターの河島先生（故）から、「最重度で言葉のない方でも、指先が使える人は職人になれる！」とコメントいただいたことがあった。

最重度の方で、この指先を使える方を見ると、その過去には幼児～学齢期の家族や療育・教育関係者の涙ぐましい関わりを想像する。

今回の気づきを、次は“確かめ（検証）”のステップへ！

その過程を“オモシロい”と感じられたら、それは成長につながる資質であり、私は輝きを感じます。



## 6月の予定

6月11日(水) 工賃支給日

6月14日(土) 田植え体験



## 2024年度の平均工賃

B型…48,655円

生活介護…27,721円

2024年度平均工賃は、2023年度からB型で592円、生活介護で3,077円向上することができました。2025年度からは施設外就労を開始し更なる工賃財源を確保する事としています。また、クリーニング作業においては、出荷に直結した重要なポジションの作業を「特殊業務」と位置づけ、特殊作業手当金を支給することといたしました。施設外就労についても施設外就労手当金を支給いたします。

今年度も少しでも工賃が向上するよう頑張っていきたいと思っています。

（楠）

今月の担当は重田でした。



## 運動会

5月17日(土)に開催されたのじぎくスポーツ大会、フライングディスクに常峰さんと森崎さんが参加され、2人とも銀メダルを獲得することができました。競技中は普段とは違う真剣な表情、メダルを貰った時はとてもいい笑顔を見せてくれました。来年も参加したいとのことだったので、金メダルを目指して頑張ってもらいたいです。

(野村)



## 懇談会

現在、個別支援計画の更新に伴い懇談会を実施しています。ワークホームでの作業の様子や、ご家庭での過ごし方を中心に、困っていることや要望などを直接話せる年に2回の機会となります。是非普段思っていることや気になることをお気軽にお申し付けください。

(重田)



## 給食会議



## 天井掃除

5月10日(土)に作業場の大掃除を職員で行いました。半年ぶりの天井掃除で雪のように舞い落ちる埃の中、ワークホーム高砂に新たに加わった吉永支援員、山口支援員補助が大奮闘して下さり、作業場全体が見違えるように綺麗になりました。今年度は朝に利用者さん、職員が協力し清掃を行っているので、みんなの作業場をみんなで綺麗に維持し、気持ちよく作業を行っていきたいと思います。

(楠)

## 保護者会総会

5月10日(土)に2025年度、ワークホーム高砂・納豆工房なっこちゃん保護者会総会が開催され、保護者さん・利用者さん合わせて32名に参加いただきました。議案も滞りなく議決されました。今年度は新たに7名の新規利用者を迎え入れ、総会にもご出席していただきました。今年度も保護者会と協力し楽しい行事を企画して、少しでも利用者さんの生活が豊かなものになるようにしていきたいと思います。是非とも行事への参加よろしくお願ひします。

(楠)

5月14日にひでかつ給食さんと会議を行い、職員や利用者さんの意見を集約し、お伝えいただきました。6月14日(土)の田植え体験のあとには保護者の皆様の給食試食会を実施いたします。価格改定に伴い、保護者の皆様の意見も取り入れながらより良い食事提供ができるようひでかつ給食さんと協力していきたいと思います。ぜひご参加お願いします。

(新山)

## 新任職員紹介

4月からワークホーム高砂で働いています。山口美香です。前職は生活介護事業所で8年勤務していました。色々教えてもらいながら毎日楽しく仕事をしています。言葉足らずで至らないこともあるかと思いますがよろしくお願いします。

(山口)



# 月刊「ワークホームだより」7月号

発行:2025年6月25日 発行者:ワークホーム高砂  
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331  
TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111  
http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



## 「働きがい」を考える

ワークホーム高砂 サービス管理責任者

楠 英充

連日、梅雨は終わってしまったのか?と思うほど猛暑が続いています。まだ体が暑熱順化できていないこの時期は熱中症の危険性が高まります。特に4月入所の利用者さんについては、ようやく新しい生活に慣れてきたころの暑さで疲れが蓄積していると思います。新しい利用者さんに限らず既存の利用者さんも、十分な睡眠、朝食の摂取等、「働く」為の規則正しい生活をお願いします。

今年6月からは熱中症対策の強化が義務付けられワークホーム高砂においても熱中症対策マニュアルを整備し対策強化に努めています。これまでの15時休憩時のスポーツドリンク配布に加え、作業前、昼食後の塩分補給タブレットの配布も始めました。根本的な暑さ対策についてはまだ不十分な所が多くあると思いますが、職員一同協力して早急に対策を実施していきたいと思っています。働きやすい職場環境を整備することは「働く」ということに一番大切だと思いますので、良いアイデア、設備等があれば教えて頂ければ幸いです。

さて、5月にはお忙しい中、懇談会にご参加いただきましてありがとうございました。懇談会をとおして色々なご意見を頂き、今後の参考にさせていただきたいと思います。その中で今年4月より開始した施設外就労について、利用者さんより「やりがいがある」という言葉を多くいただきました。ワークホーム高砂にとって新しい取り組みである施設外就労ですが、外に出て直に聞く「今日もありがとう」、「いつもきれいにしてくれてありがとう」という言葉が利用者さんにとって励みとなっているという事を改めて実感しました。「働く」という事は自分の工賃の為にという部分もありますが、自分の働きが誰かの為になる、そして承認されることこそが「働きがい」なのではないかと強く感じました。

「働く」という事をメインに事業運営を行っているワークホーム高砂ですが、「働く」だけに捕らわれず、利用者さんにとっての「働きがい」をいかに提供していくかという事を目指していきたいと思います。施設内作業(クリーニング作業)においても社会インフラを支える重要な仕事をしていますが、利用者さんにとって本当に実感が持てているのか?という疑問はあります。自分たちが作った物が「どこで、誰が、どんな風に使っているのか」を実際に見ることで、自分たちの仕事が誰かのためになっている。という事を知る機会をこれからは提供していきたいと思っています。

「働いて良かった」そんな風に思える作業提供ができたと思っています。

## 7月予定

7月9日(水)

工賃支給日

※6月30日(月)、7月1日(火)にスイートコーン収穫体験を行なう予定です。

## 熱中症予防対策

令和7年6月1日から職場における熱中症対策が義務化されました。ワークホーム高砂では利用者さんの健康と安全を守るために、熱中症が疑われる症状(頭痛・倦怠感・高体温等)がみられた場合は作業を中止し帰宅していただく対応をさせていただきます。保護者の皆様にはご負担をおかけすることになりますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

体調が良くない、睡眠不足、朝食の未摂取等は熱中症になりやすくなります。利用者の体調変化には十分注意いたしますが、ご家庭におかれましても健康管理にご協力をよろしくお願ひいたします。(山本)



## ブラッシング指導実施

5月23日(金)加古川歯科保健センターの歯科衛生士さんに来ていただき、今年度1回目のブラッシング指導をしていただきました。6名の新しい利用者さんも参加され、染め出しで磨き残しのチェックや、歯ブラシの持ち方、力の入れ具合などを実践的に学びました。お知らせしました指導結果には、衛生士さんから丁寧なコメントをいただいているのでご確認ください。正しいブラッシング方法を身につけ、お口の健康を保ちましょう😊

次回は10月3日(金)に実施させていただく予定です。(山本)



今回の担当は長瀬でした

## うちわ作り・保護者給食試食会

6月14日は田植え体験を予定していましたが、あいにく雨のため中止となりました。利用者のみなさんはうちわ作りと風船リレーを行い、保護者のみなさんは保護者懇談会を行いました。うちわ作りでは似顔絵や動物の絵を描いている人もいれば、文章や言葉を書いている人もいました。1人1人個性あふれる素敵なおうちわが完成しました。うちわ作りのあとは保護者のみなさまにもご観覧いただき、完成したうちわを使用した風船リレーを行いました。応援したり妨害したりと大盛り上がりでした。

保護者給食試食会には26名の方にご参加いただきました。いただいたご意見をもとにひでかつ給食さんと協力しながらより良い食事提供ができるよう努めてまいります。（新山）



## のじぎくスポーツ大会（陸上競技）

5月24日（土）に加古川陸上競技場で、のじぎくスポーツ大会（陸上競技）が開催されました。ワークホーム高砂からは小南さんと小林さんの2名が出場されました。当日は生憎の雨で、肌寒い天気となりました。競技場のコンディションは悪かったですが、2人とも最後まで走り切り、金メダルを獲得することができました。2人とも嬉しそうにしており、お互いを称え合っていました。来年はもっとたくさんの方に参加してもらいたいと思いました。（花岡）



## 兵庫大学交流会

5月31日土曜日にワークホーム初の試みとして、施設外就労でお世話になっている兵庫大学の学生ボランティアの皆様と交流会を実施しました。

ボランティアに応募してくださった8名の学生さんと一緒に大学構内の草むしりを行い、食堂でランチを食べました。

初めての交流会という事もあり私たち職員もドキドキしていましたが皆さんとてもやさしく楽しそうに参加してくださいました。ワークホームの利用者さんも積極的に学生さんと交流されており普段あまりできないような経験ができたのではないかと思います。（重田）



## 第37回ほんたん親善運動会

去年は雨で中止になったほんたん親善運動会。今回も前日まで天気に不安を抱える中、当日の朝は不安を一掃する晴天に恵まれ決行することができました。今回は、今年度より新しく入った利用者さん4名を率いて参加させていただきました。

各種目で皆さん大活躍で、特に『はこ棒ね』という種目では4人全員参加型の一本の棒を4人で持つリレー形式で運ぶ競技でしたが、パワフルな4人の迫力ある走りは今大会1番の活躍と言っても過言ではないほどの活躍ぶりでした。他の事業所の利用者さんと運動会を通じて一緒に喜び合ったり、悔しがったりと皆さん楽しまれた様子でした。（吉永）



# 月刊「ワークホームだより」8月号

発行:2025年 1月 24日 発行者:ワークホーム高砂  
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111  
http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com



## 第1回 地域連携推進会議開催について

ワークホーム高砂施設長 長谷川 博信

先日、亀山管理者のもと、法人はじめての地域連携推進会議を開催いたしました。対象は共同生活援助(グループホーム)で、高砂市の職員からは「市で最も早く開催された会議」とのことでした。

地域連携推進会議は、本年度(R7)から開催が義務づけられましたが、① 利用者との関係づくり、② 地域の方への施設等や利用者に関する理解の促進、③ 施設等や利用者に関する理解の促進、④ 施設等やサービスの透明性・質の確保、④ 利用者の人権擁護を目的に、利用者、家族、地域の関係者、市の担当者などを構成員とした会議と施設訪問から成ります。

制度の背景には、グループグループホーム等を運営する株式会社「恵」の食材料費の過大徴収について、組織的な関与が認められたこと。所謂、経済的虐待の連座性が大きく取り上げられたことや、グループホーム等居住型の事業所での虐待件数が多かったことがあげられます。厚労省の元専門官は「透明性を高めること」が最も大きな課題と言っています。

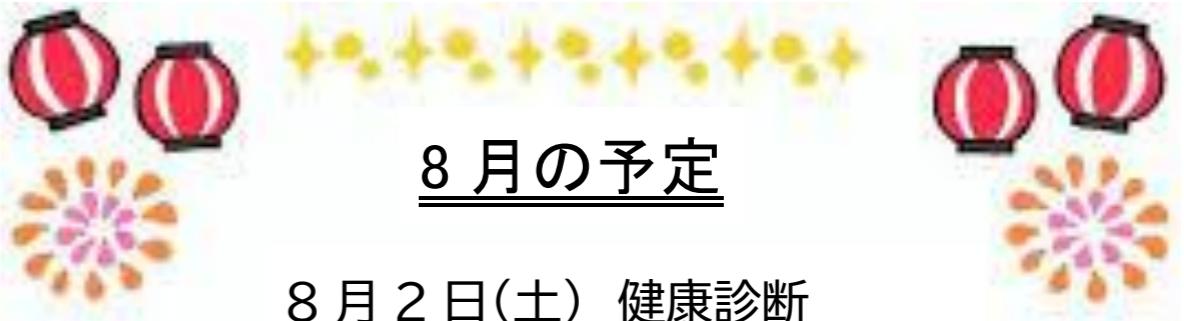
一方、グループホームを管理・監視のみの視点で捉えるのはどうかという疑問はあります。会議のなかでは、ご家族や地域の方から温かい言葉をいただき、利用者からも「楽しい」との声がありました。こうやって地域のいろんな方が話し合いをすることこそが本来の目的であってほしいと思います。

知的障害者のグループホームは、1989年に制度化され、日本におけるノーマリゼーションへの意識の高まりから、各地に設置されるようになりました。ノーマリゼーションとは、高齢者や障がい者などを排除するのではなく、健常者と同等に当たり前に生活できるような社会こそが、正常(ノーマル)な社会であるという考え方です。人はどのような状態であっても、地域の中で人の役に立ちたい、社会の中で役割をもって生きていきたいと願うものです。

社会福祉法人あかりの家の初のグループホームは2002年に開設されました。このグループホームは、前身が「からしだねの木共同体『希望山荘日笠』生活ホーム」として法人設立者の一人が1992年に設立し、後にあかりの家に引き継いだものです。

この「からしだね」という団体名は、聖書のマタイによる福音書に登場する「からし種」のたとえに由来するもので、小さな種でも成長して大きな木になることから、成長して大きなことを成し遂げる可能性を秘めた『希望』を象徴しています。

はじめての地域連携推進会議に際し、懸命に準備をいたしましたが、至らぬこと多かったかと思います。それでも皆様の参画のもと、小さな「からし種」が、たくましく大きく成長していくように、今日のはじまりが、地域との繋がりと広がりの「種」となればと願います。



## 8月の予定

- 8月2日(土) 健康診断
- 8月13日(水) 工賃支給日
- 8月16日(土) 保護者役員会
- 8月30日(土) 納涼祭

詳細は別途お知らせいたします。



## がんばれ泉さん！

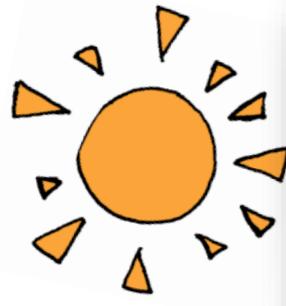
7月から泉百花さんが一般就労へとステップアップされました。いつもニコニコしておりみんなの人気者でした。ワークホームではいろいろな作業に取り組まれ、活躍してくださいました。新しい環境でもさらなるご活躍を応援しています。(新山)



7月末で退職することになりました花岡です。コロナがまだ収束していない時にワークホームに来た為、保護者の皆様は誰か分からぬかもしれません(笑)。約4年間ワークホームでお世話になりました。初めてのワークホームでの夏場の作業は、想像以上に過酷でした。その中でも一生懸命に作業をしている利用者さん達を見て、負けていられないという気持ちになったことを今でも覚えています。利用者さんたちのおかげで楽しく仕事をすることができました。どこかで会うことがあれば、声をかけていただけたら嬉しいです。4年間ありがとうございました。(花岡)

今月の担当は、新山でした。





## スイートコーン収穫体験

6月30日から7月3日の間で作業の合間を縫って前橋さんの畠にお邪魔してスイートコーン収穫体験をさせていただきました。とても甘くおいしいスイートコーンを前橋さんのご厚意で一人2本持ち帰させていただきました。暑い中でしたが貴重な体験になりました。（重田）



## 法人新人研修会

6月24日に法人新人研修会が行われました。2回中の1回が終わり、第1回の研修内容では「発達障害の理解」と「法人事業紹介・制度」についての講義を受けました。

まず、クローバーの和田センター長による「発達障害の理解」についての講義では、自閉症についてどういった障害なのか細かな名称から分類、特性や特徴などのことを学ばせていただきました。自分はこういった知識は全くなかったため新鮮で、初めて知るようなことしかありませんでした。

次に、あかりの家の福原支援部長による「法人事業紹介・制度」については、どこにどういった給付サービスがあるのかや、給付費などにまつわることを学ばせていただきました。これから働く上で知っておかないといけないことだなと感じました。

今まで現場でしか知りえなかった利用者さんの特徴をしっかりとした知識として学ぶことができ、今後の自分の支援の弾みになると感じました。これからの支援に尽力できるように頑張りたいと思います。（吉永）

## 法人研修会

2025(R7)年度 法人研修会-ハラスメント・虐待防止・BCP(自然災害)・感染症対策-が7月12日(土)生石研修センターで行われました。

BCP研修では、講師の高砂市総務部危機管理室 防災担当主幹 田中善朗氏よりハザードマップの活用方法、災害時に気をつけておくことを具体的に分かりやすく講義していただきました。また、虐待防止研修では「各事業所のR7年度虐待防止におけるテーマと取り組み計画について」の発表があり、感染症対策研修では「感染予防や対応方法」などを、法人内の看護師が講義しました。

今回の研修で得た学びを現場で活用するとともに、法人全体での知識の共有や意識の統一を図ることで、よりよい支援へと繋げていきたいです。（山本）

## 東はりま特別支援学校 PTA 事業所見学会

東はりま特別支援学校のPTA研修部の事業所見学会が6月24日(火)にワークホーム高砂で開催されました。当日は30名近い保護者の方がご参加下さいました。小等部・中等部の保護者さんが中心という事で、今後の事業所選びについてお話をさせていただきました。色々な障害福祉サービス、障害者雇用等の働く場が以前より格段に増えている今日、できる限り色々な事業所等を見学、体験し選択肢を増やすことが大切です。また、ご本人のできない事を探すより、できる事を探すことをやってみてくださいと伝えています。こうして外部の方が来られることはワークホーム高砂にとっても良い事なので、今後も積極的に受け入れていきたいと思います。（楠）

## アクエリース・塩タブレットの提供を開始しました！

熱中症対策として、6月中旬頃から15時の休憩時に1人1本アクエリースを提供しています。また、今年から1日2回作業前と昼食時に塩タブレットの提供を開始しました。作業場はかなり暑くなっていますが、こまめに水分補給を行っています。まだまだ暑い時期は続きますが、熱中症に気を付けながらワークホーム一同頑張っていきます。ご家庭でも熱中症対策へのご協力よろしくお願いします。（新山）



# 月刊「ワークホームだより」9月号

発行:2025年8月22日 発行者:ワークホーム高砂  
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331 TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111  
<http://workhome-takasago.org/> E-mail [workhome@nifty.com](mailto:workhome@nifty.com)



現場が輝いてこそ、崇高な理念や素晴らしい建物も価値を持つ vol.3  
～今年の暑さ対策～

副施設長 亀山 隆幸

今年も、猛暑の季節が本番を迎えました。

暑さ対策。今後も持続可能な事業所であり続けるために、避けては通れない大きな課題です。

今までの20年の工夫の歴史の上に立って、更に一步でも進める。利用者や職員の頑張りを背に、「自分自身が動く！」を肝に命じ、今夏に臨んでいます。

「これで万全です」と言えないのが心苦しいのですが、皆さん気になっておられることですので、現在の取り組みを綴らせていただきます。

## 1. クリーニング班

### ◆ 大型冷風ファンの導入（シーツ班）

詳細は、「シーツ班の冷風機設置について（吉永唯人）」を参照いただけたらと思いますが、シーツロールの熱源に近いシーツ班での導入です。

楠課長提案の“バズーカ級”的取り組みです。



## 2. 兵庫大学 清掃班

特にトイレ掃除での暑さへの対策が課題となりました。

知人の大工を始め、外作業に従事する人たちに情報収集した中で、必須アイテムはこれでした。

### ◆ 空調服の導入

洗い替え用を含め、利用者1人に2枚を貸与という形で導入しています。

洗濯はご家庭でお願いし、洗濯した物を翌々日に持参していくという流れ。またバッテリーの充電方法も含めてシステム化し、実施中です。



※ その他、日よけシェードの増設と張替え（重ね張り）、各利用者のスポットクーラーの位置調整、

塩分タブレットによる塩分補給など。

※ ゴトウさんとの経営会議にも継続課題としてあがっており、今後も検討していきます。

## 9月の予定

工賃支給日 9月10日(水)

保護者施設見学会 9月27日(土)

※ 詳細につきましては後日配布します。

## 納涼祭のお知らせ

8月30日(土)の17時からワークホーム高砂第2作業場前で納涼祭を行います。つきましては直前になりますがいくつかお知らせをさせていただきます。

出店一覧: フランクフルト かき氷 焼きそば 綿あめ

スーパー ボールすくい 千本引き ☆利用者さんはおにぎりあります

☆利用者本人様につきましては各店一回までは無料ですが、保護者、同伴者につきましては、1セット1400円の金券制です。

☆飲み物は準備する予定ですが、量に限りがあります。

☆駐車場につきましては東側駐車場をご利用ください。

☆ごみの分別にご協力お願いいたします。

☆会場は蚊を含め虫が多いことが予想されます。各自で虫よけなどを持参することをお勧めします。

今月の担当は野村でした。

# 健康診断

8月2日(土)にワークホーム高砂、納豆工房なっこちゃんの両事業所の利用者、及び職員の健康診断がワークホーム高砂で実施されました。

関係書類の提出などご協力いただきありがとうございました。

注射が苦手な利用者さんは、支援員に見守られ、励まされながら採血してもらっていました。終了後、頑張ったね！とやり遂げたことをたくさん褒められていました😊

なお、健康診断結果は後日お知らせをいたします。

健康診断は体の様子を知り、毎日の生活で自分では気づきにくい病気につかっていないかを知るために行う大切なものです。

再検査や治療が必要な人は、速やかに医療機関を受診していただきますようお願いいたします。(山本)



## あかり全体会

8月11日(月)にあかりの家厨房で全体会が行われ、各事業所から約50名の職員が参加、ワークホームからも6名が出席しました。約7年間障がい者支援施設あかりの家のトモニ療育研修でご指導いただきました河島先生追悼としての研修でした。TBS報道特集「自閉症の療育に生涯を捧げた医師」を視聴し、「療育と虐待」「標準的支援の是非」などの視点から幹部職員を中心に意見討論し考えを深めました。あかりの中心職員の話を聞きながら私自身自閉症との向き合い方について深く考えさせられる機会となりました。まだ自分の考えはまとまりきっていませんが、今後も考えていかなければならぬテーマだと思いました。(重田)

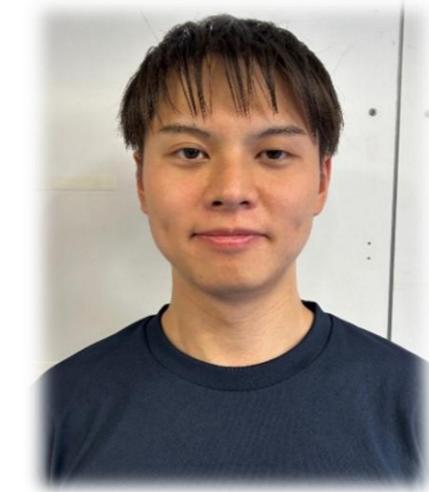
## 新任職員紹介

7月末からワークホーム高砂で働かせて頂くことになりました、佐野 宏太(さの こうた)と申します。出身は北海道です。今年23歳の年で今もサッカーを続けているので体力には自信あります。

まだまだ経験が浅く、ご迷惑をおかけすると思いますが、1日でも早く馴染めるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



はじめまして！8月からワークホーム高砂で働くこととなりました、森川 玄理(もりかわ げんり)です。以前は納豆工房なっこちゃんで働いたので顔見知りの利用者さんも何人かおられます。分からない事だらけですが、頑張りますので宜しくお願い致します。



## シーツ班の冷風機設置について



先月からシーツ班に新たに冷風機を設置しました！

この暑い時期の特に暑さを感じるシーツ班に、利用者さんの皆さんに少しでも快適に作業してもらえるよう設置しました。

巨大な機械からものすごい風が出て、以前の暑さからは少しばかり涼しくなったかな？

温度計でも実際に2度ほど下がったりと効果は出ているよう、利用者さんたちも暑さは感じながらも手を止めることなく日々頑張っています。職員一同も暑い中シーツを分けていたため大変助かっています。

利用者さんには水分補給もしっかり取ってもらいながら少しでも快適に、そして元気に作業が出来るように支援していきたいと同時に、この暑い夏を職員・利用者みんなで乗り越えていきたいと思います。(吉永)



# 月刊「ワークホームだより」10月号

発行:2025年9月26日 発行者:ワークホーム高砂  
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331  
TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111  
<http://workhome-takasago.org/> E-mail [workhome@nifty.com](mailto:workhome@nifty.com)



## 初めての納涼祭 ～支援と重ね合わせて～

ワークホーム高砂  
楠 英充

8月30日(土)に初めての行事企画としてワークホーム高砂・納豆工房なっとこちゃん納涼祭を保護者会協力のもと、無事実施することができました。当日は暑い中、ご協力いただいた皆様、ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

今回の行事企画は年度当初の年間計画案作成段階では、ぼんやりとしたもので夏に何かできたらいいなあというぐらいの物でした。今年度は年度途中に職員の入れ替わりがあり、新しいチームとして支援にあたるという状況がありました。その時に思ったのが「何か職員全員で作らなければ」という事でした。その時ちょうど、納涼祭があり、これは良い機会だと思いました。しかし不安の方が大きかったというのが正直な感想です。私は同じ仕事の与え方でも環境により、仕事を与えられた者は、「負担」に感じる場合、「やりがい」に感じる場合、双方が存在すると思っています。今回でいえば、夏の繁忙期、作業が大変な中の準備、職員にとっては「負担」になるのではないかと思っていました。ワークホーム高砂の行事主担当は重田支援員、新山支援員の両名でしたが、忙しい中、着実に準備を進め、他の職員も協力し職員一丸でを迎えることができた事は、ワークホーム高砂の新たにスタートを切ったチームにとって本当に意味あるものだったと思います。至らない点もあったかもしれません、当日を迎えるまでのプロセスこそ、本当に価値ある時間であったように感じます。(私は開催1週間前にコロナにかかりました……)

支援においても同じで、チーム支援で大切なのは、「助け合い」だと思います。1人でできない事もチームならできる。得手不得手もチームだからこそ補完しあえる。誰が困っていたら、周りの者は困っていることに気付いてあげることが大切。チーム支援では同じプロセスを経験するからこそ、真剣な意見交換ができると思っています。

行事に戻りますが、私は行事に限らず「いいものは残し、新しいものもどんどん取り入れていく」という考えです。「いつもこうだから」「前はこうだから」というのは、その時同じ環境、同じ必要性がある状況というのは絶対ないので、その時の環境や必要性に応じて柔軟にやっていきたいと思います。納涼祭についても同じではあります、利用者さんのいい表情がたくさんあったので来年もできたらいいなあと思っています。  
最後にもう一度、

ご協力いただいた保護者会、ご参加いただいた方々、そして頑張ってくれた職員、  
本当にありがとうございました。楽しい時間を共有できてよかったです。



## 10月予定

10月3日(金) ブラッシング指導(2回目)

10月8日(水) 工賃支給日

10月18日(土) 保護者会役員会

\*11月1日(土)は稲刈りを予定しております。



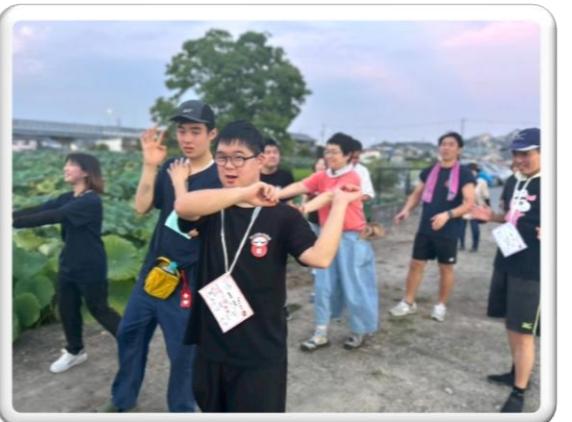
## 播淡地区職員研修会 楽亭ゆかー

8月29日(金)に姫路の総合福祉会館で播淡地区職員研修会がありました。今年度播淡地区的研修委員長はワークホーム高砂が務めており、職員代表の野村さんが中心となって企画、運営を行っています。ワークホームから重田、納豆からは荻内、大前が参加しました。

研修内容はダウン症で落語家の村上ゆかさんと母親の喜美子さんが落語やエピソードを交えながら幼少期の育ちや、言葉や数の概念獲得の支援、感性の伸ばし方をお話してくださいました。支援員としても1人の人としても勉強になる研修会でした。途中何度も引用されていた、有香さんの詩からは独特の感性を感じられ、とても刺激を受けました。



今回の担当は吉永でした



## 納涼祭



8月30日(土)に保護者会協力のもと納涼祭を開催しました。初めての試みで事前準備に苦労しましたが、無事終えることができ、職員一同ホッとしています(笑)  
当日には利用者さんや保護者さんの楽しそうな姿を見ることができ、とても嬉しかったです。これからも仕事のモチベーションに繋がるような楽しい行事ができればと思います。たくさんのご参加ありがとうございました！  
(新山)



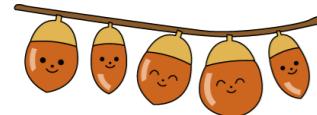
職員一同、準備から片付けまで頑張りました！  
特に事前準備では重田・新山コンビが奮闘。  
こんな立派な行事が出来たのは二人のおかげです！  
ありがとう！！！！

# 月刊「ワークホームだより」11月号

発行:2025年10月23日 発行者:ワークホーム高砂  
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331  
TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111  
<http://workhome-takasago.org/> E-mail [workhome@nifty.com](mailto:workhome@nifty.com)



道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である



ワークホーム高砂施設長 長谷川 博信

私事ですが、10月1日付で事務局次長の兼務発令を受けました。

現在、私は法人理事とワークホーム高砂、納豆工房なっこちゃんの施設長を兼ねて務めています。また、対外的には、兵庫県知的障害者施設協会の生産活動・就労支援部会長や兵庫県社会就労センター協議会協議員、高砂市社会福祉法人連絡協議会副会長をお受けしております。また、最近は「なっこちゃん」の知名度があがったことから、研修会の講師や執筆の依頼等が複数あり、納豆工房なっこちゃんのみならず、ワークホーム高砂のことを多くの方の前で、恥ずかしながらも話す機会が増えています。

このような中にあっても事務を引き受けるのには理由があります。入所施設あかりの家は、もうすぐ40周年を迎えます。建物の老朽化は勿論のこと、利用者の高齢化に対し、機能面でも古くなっています。ワークホーム高砂も昨年度20周年を迎え、同様のことが言えます。財務的な備えと適切な支出が必要であり、施設の維持管理を経理面からも支える必要があります。法人の解決すべき重要課題、現在風に言うと「イシュー」に取り組む訳です。

そもそも福祉業界では、現場主義のもと総務・経理的な事務が軽んじられる傾向があります。そんなことを思いながら、標題の福澤諭吉の言葉を借りることが多くなっています。これまで以上に事業も経営も両輪で考えていきたいと思っています。



## 稲刈りについてのお知らせ



今回の稲刈りに親子で参加される方には各親子に一本ずつノコギリ鎌を貸し出しする予定です。貸出できる数に限りがありますので、ノコギリ鎌をお持ちの方は当日持参いただくようお願いいたします。当日は汚れてもいい靴でお越しください。質問等がありましたら重田までお願いします。



## 11月予定

11月1日（土） 稲刈り＆バーベキュー

11月12日（水） 工賃支給日

11月21、22日（金・土） 1泊旅行



## 権利擁護・虐待防止研修

今回の研修では、関西福祉大学で教授をされている谷口恭司氏による「現場で実践する意思決定支援」の講義と「事例から学ぶ意思決定支援」のグループワークを行ないました。

障がいのある方が自分らしい暮らしを実現するには、日々の小さな選択や意思表明の積み重ねがとても大切です。しかし、支援現場では「何がご本人の意志かわからない」、「安全や効率も大切」といった迷いや葛藤も多くあります。本講義の中で印象に残ったことを何個か紹介したいと思います。

まず一つ目は、信頼関係の深さが必ずしも本人との関わりの期間の間傘に比例しないということです。接触の機会が少ないので後々の影響を考えることなく意思を表明することも考えられるからです。

二つ目は、日々行なう意思決定は今までの経験が蓄積されたものが影響されます（障害の有無に問わず共通）。その中で成功体験については自己肯定感をあげることができますが、反対に失敗体験も次に同じことを繰り返さないという記憶として本人にとって大事な財産になるという事です。成功体験だけが利用者さんにとって前向きなことなのかなと思っていましたが、失敗体験も利用者さんになるのだと印象に残りました。

意思決定支援について今回学ばせていただき、単に利用者さんを尊重するだけで良いのか？向き合うことが重要ではないかと感じることができました。現場の中で各利用者さんと向き合いながら今後も支援していきたいと強く思いました。（吉永）

# 施設外就労を始めて



兵庫大学に施設外就労で清掃業務を始めて半年が経とうとしています。施設外就労ということもあり、ワークホームから出て社会性を身に着けることも兼ねて行なっております。そのため大学の先生方や生徒さん、また他者の清掃会社さんとすれ違う際は挨拶をするよう伝え心掛けています。その理由としては、まず挨拶することは悪い事ではないので何回しても良いのではという事と、それで嫌な気持ちになる人はいないからです。そして一番の理由は「ワークホームを代表して行っている」からです。清掃中はもちろん、大学にいる間はワークホームのユニフォームを着ています。そのため恥ずかしい姿を見せてしまうと、ワークホーム高砂の人が…とその人だけでなく、ワークホームがという風になってしましますからです。だからこそ、責任を持って恥ずかしくないような振る舞い・行動をするように伝えています。そうした経験も出来るのが施設外就労の利点ではあるので利用者皆さんとの社会性を身に付けるよう僕たち支援員も恥じないよう支援していきたいと思っております。(吉永)



## ブラッシング指導

10月3日(金)加古川歯科保健センターの歯科衛生士さんに来ていただき、今年度2回目のブラッシング指導をしていただきました。今回は歯科衛生士学校の実習生さんも来られ、各利用者さんに適したブラッシング指導を一生懸命に学ばれていました。

明るく優しい歯科衛生士さん方と楽しく交流しながら正しいブラッシング方法を学び、とても綺麗な歯になりました。

お知らせしました指導結果には、前回同様に丁寧なコメントをいただいているのでご確認ください。虫歯や歯周病を予防することで、全身の健康維持につながります。虫歯治療の必要性、適切な歯ブラシ等についてのコメントがある方は、速やかに対応をお願いいたします。(山本)



## ワークホーム高砂に異動してきて

この4月より嘱託職員から正規職員としてワークホーム高砂で働かせてもらってからもう半年が経とうとしています。しかし、ここあかりの家の法人で勤め始めて実は在籍6年目になります。納豆工房から異動という形でワークホームに来ているイメージかと思いますが、1,2年目はワークホームで働いていました。2年目の途中から納豆工房に異動になり、再び戻ってきたという経緯になります。

また、ほとんどの時間はグループホーム(希望山荘)に勤務していたため、行事ごとや研修などこれまでには参加することはありませんでしたが、これからはそういったものにも参加していきます。皆さん是非、お気軽に話しかけてください！

僕自身そういったイベントごとは大好きなので楽しんで盛り上げていきたいと思っています。

最後に、こうして出会った利用者さんたちとの出会いは何かのご縁だと思います。正規職員になってから半年も経ちますがまだまだ右も左も分からない若輩者です。これから色々な事を勉強しながら皆さんと一緒に成長していくたらと思います。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。(吉永)



# 月刊「ワークホームだより」12月号

発行:2025年11月25日 発行者:ワークホーム高砂  
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331  
TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111  
<http://workhome-takasago.org/> E-mail [workhome@nifty.com](mailto:workhome@nifty.com)



現場が輝いてこそ、崇高な理念や素晴らしい建物も価値を持つ vol.4

～自閉症総合援助センターの一躍を担う～

副施設長 亀山 隆幸

シーツ班の8割は自閉スペクトラム症の利用者

12月開催の法人事例研究会の論文で、楠課長と共に「わくわく<sup>太陽</sup>ワークホームづくりアクション2025」を投稿した。



私は2年前、14年振りにWH配属となり、シーツ班の顔ぶれを見た時、「ほほ、自閉スペクトラム症の利用者！」と驚いた。ワークホーム高砂の強みのひとつに、楠課長はこのシーツ班における自閉スペクトラム症の利用者の頑張りを触れている。毎日3,000枚以上のシーツ等を出荷されている。以下、論文や作業に入っている支援員との雑談から、シーツ作業が持つ要素をポイント的にまとめてみる。

## 【ポイント】

- 1 投入そのものが<魅力>
- 2 機械が<作業指示>を出してくれている  
アームが順番に降りてくる =「シーツをアームに掛けて下さいよ」の指示
- 3 機械が<作業リズム>を作ってくれている  
一定のリズムを1日5時間以上、保つことは容易ではない。メトロノームのように決まった時間間隔でアームが降りてくる。これに瞬時に対応する=安定した作業リズム。
- 4 目前の大型機械が周りの不要な刺激を遮り、<すべきことを明確化>

もちろん、機械だけで成り立つわけではなく、「最初にしっかりと正しい形を教える」という導く支援者の存在があることである。

また、ワークホーム高砂オリジナルの工程、<前出し (by 楠)>によって、投入者が無駄なく投入できるよう、全面的に支えてくれている。<前出し>は自分で作業リズムを作らないといけない為、投入より難しいと皆、口々に言っている。でも、自閉スペクトラム症の利用者が行っているリアルがワークホーム高砂にある。

## 12月の予定

12月20日(土) クリスマス会

12月27日(土) 作業日

12月29日(月) 最終作業日

1月5日(月) 作業初め



## 播淡地区研修



播淡地区委員会の委員長を務める野村さんの企画で、ASハリマアルビオンの代表取締役社長の岸田様に講師として来てもらい午前は講義をして午後からは体を動かした運動を行ないました。

講義ではコミュニケーションの大切さを学びました。特に印象に残ったことは会話では「相手に緊張させないこと」という言葉が心に残りました。

今後にしっかりと活かせるように意識して利用者さんたちとコミュニケーションを取っていきたいと思います。（吉永）



## 懇談会

11月1日から懇談会を実施しています。個別支援計画の見直しをおこない、普段聞けないご家庭での様子やワークホームへのご意見やご要望をたくさん聞かせていただきました。利用者さんの将来のため、また、ワークホームに通うのが楽しいと思ってもらえるよう今回お聞きしたご意見やご要望を支援に活かしていきたいと思います。（野村）

今回の担当は重田でした





# 稻刈り・バーベキュー

11月1日(土)に前橋農園の前橋さんご協力の元、恒例となりました稻刈りとバーベキューを行いました。今年は当日快晴だったものの前日の雨が影響し、足場が悪い中での稻刈りとなりました。皆さん長靴を履いて田んぼの中に入られ、慣れた様子で稻刈り体験を楽しんでいました。待ち時間はおにぎりを作っていました。

バーベキューでは保護者会役員の方が中心に準備をおこなっていました。どの網の前にも列ができるて皆さん満足そうにお肉や魚介、新米をほおばっておられました。実りの秋ということで皆さんいっぱい食べて元気にお仕事を頑張ってほしいと思います。



## 東はりま特別支援学校見学

11月5日(水)に東はりま特別支援学校高等部の1年生20名の方が見学会に参加されました。初めて作業事業所の見学をする方や中等部時代から見学に来ている方も多数おられました。働いている様子を見学した時は皆さんとても熱心に聞いており、実際に防水を畳む体験もしていただきました。

また、今年度は東はりま特別支援学校から6名の方がワークホーム高砂で働き始めたこともあり、代表で2名に働いている感想を発表していただきました。発表している様子を見て先生方からは見違えるように成長していくとても感動しましたと言っておられました。

今回の見学会で働くことに興味を持ち、ワークホーム高砂が選択肢の一つになってくれればうれしく思います。